

明治七年六月

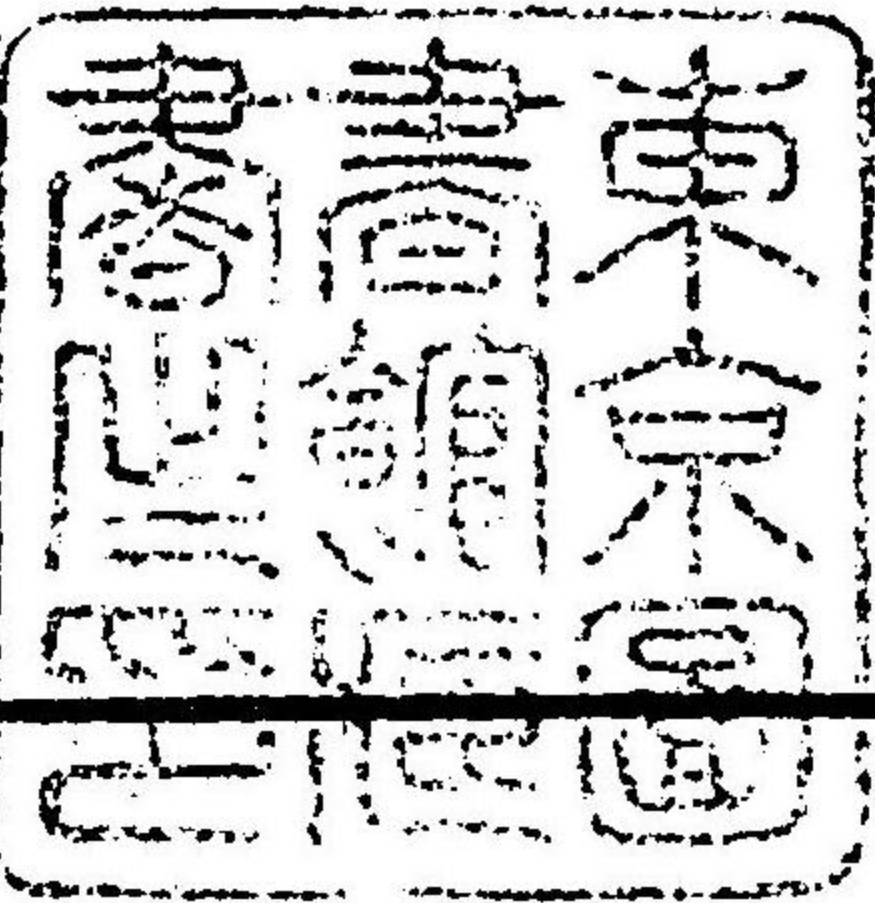
泰西自然神教

文部省

自然神教

例言

一 歐洲各國法教ノ書ハ新舊ノ兩教ヲ首トシ
 皆人ニ教フルニ過ラ悔ヒ善ニ遷リ以テ上
 帝ニ事フルノ道ヲ以テス然レモ其宗派ノ
 主旨トスル所ニ從ヒ互ニ之カ説ヲ立テ其
 論スル所各偏倚ナキヲ能ハスト雖モ獨リ
 此自然神教ハ吾人ノ日常耳ニ聞キ目ニ觀
 ル造化ノ妙用ニ就キ以テ無礙無形ノ上帝
 常ニ空際ニ居リ宇宙ノ間ニ充塞スル此万



類ヲ主宰スル道理ヲ論シ人ヲシテ默察省
 悟以テ冥々ノ中ニ上帝アルヲ知ラシムル
 ニ在リ故ニ此書中ニ載スル所ハ敢テ此宗
 ノ論スル所ニ依リ或ハ彼法ノ説ク所ニ原
 キ以テ立論セル者ニ非サルナリ
 一 自然神教ノ書ハ歐土ニ於テ其類數種アリ
 故ニ其書亦異同アリテ神ニ事フル道ノ如
 キハ神教ノ部中ニ加ヘサル者アリ然レモ
 此書ハフレミング氏所著ノスウェーデントモ
 ラルズロソヒリヨリ抄出シ傍ラペーリー

氏ノ自然神教ヲ參酌シテ之ヲ譯スルカ故
 ニ篇中分類區別ノ如キハ一ニ兩書ノ體裁
 ニ從フ

一 自然神教ハ高尚微妙ノ書ニシテ其深意蘊
 奥原文ヲ解スル者ト雖モ瀏覽一過ニシテ其
 義ヲ通曉ス可キニ非ス况ヤ今邦語ニ易フ
 ルニ直譯ヲ以テスル時ハ獨リ行文ノ艱澁
 窒滯ニシテ讀者ニ便ナラサルノミニ非ス
 全書ノ旨趣モ亦猶風ヲ繫キ影ヲ捉フルカ
 如ク人ヲシテ其何者タルヲ了知セシムル

一能ハス因テ大約意譯ニ從ヒ或ハ原文ノ位置ヲ變シ或ハ原語ヲ増減シテ務テ其意ノ達スルヲ主トス讀者宜シク之ヲ諒ス可シ

一書中右傍ニ||ヲ施ス者ハ地名||ヲ施ス者ハ人名左傍ニ||ヲ施ス者ハ官爵名||ヲ施ス者ハ物名ニシテ識別ノ便ニ供スル者ナリ

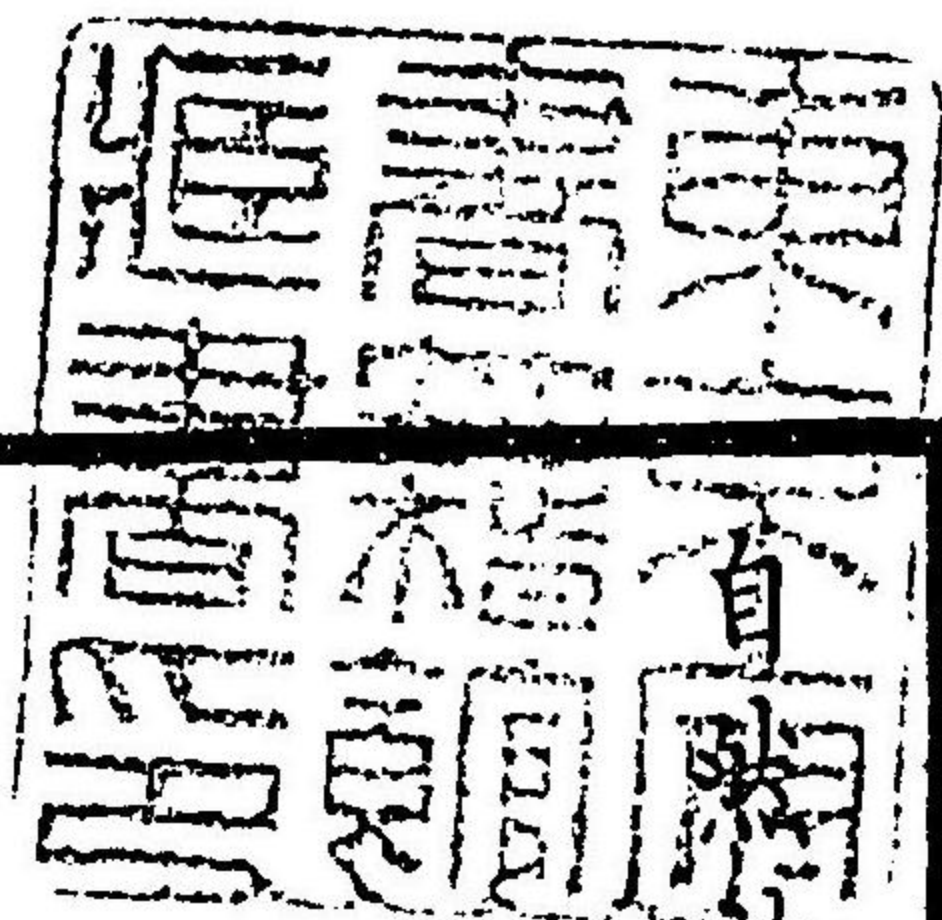
明治六年六月

箕作麟祥識

自然神教例言終

自然神教目次

- 第一章 上帝アルヲ論ス
- 第二章 上帝ノ性質ヲ論ス
- 第三章 上帝ノ看護ヲ論ス
- 第四章 上帝ノ勸善懲惡ノ統馭ヲ論ス
- 第五章 心ノ無體ナルヲ論ス
- 第六章 靈魂ノ永存スルヲ論ス
- 第七章 上帝ニ對シ懐ク可キノ意思及ヒ上帝ニ事フルノ道ヲ論ス



自然神教 卷一

題言

箕作麟祥 譯述

自然神教トハ自然ノ靈光ニ因リ人ヲシテ上帝
 アルヲ曉ラシメ且上帝ニ事フルノ道ヲ知ラ
 シムル教ヲ云フ
 凡ソ人タル者ノ親ク上帝ニ事フル道ハ其類ヲ
 分テ三トス

第一 理ニ從テ篤ク上帝アルヲ信スル事

第二 上帝ノ性質及ヒ統馭ヲ真正ニ了知スル事

第三 上帝ニ對シ適宜ノ意思ヲ懐キ及ヒ至當ノ道ヲ盡クス事

第一章 上帝アルヲ論ス

夫人タル者理ニ從ヒ篤ク上帝アルヲ信スルハ人ノ義務、法教ノ基本ニシテ博ク考ヘ詳カニ思フテ其確證ヲ得サル可カラズ因テ今其徵ト為ス可キ者ヲ論スルニ天啟即チ經典ニ出ル所ヲ除ク

ノ外畢竟人ノ道理ヲ辨スル心ニ因リ以テ自カヲ知ル可キ者ナリ蓋シ自然ノ靈光ニ因リ自カラ上帝アルヲ知ル諸徵ノ基本ハ即チ各人ノ心ニ於テ泯滅ス可カラサル大道ニ在リ

今此憑據ヲ分テ三種トス曰ク道理上ノ憑據曰ク天然上ノ憑據曰ク人心上ノ憑據而シテ其道理上ノ憑據ハ道理ヲ識認スル心ニ原キ天然上ノ憑據ハ天然ノ顯象及ヒ萬物ノ整齊ニ出テ人心上ノ憑據ハ人種ノ史乘人心ノ信據及ヒ我地球ノ變易沿革ニ因ル

此ニ斯ク此憑據ヲ三箇ノ種類ト為シ分別シタ
 ルノ正理ニ合ヒ且此三種ノ名稱其宜キヲ得タ
 ルヤ否之ヲ論スルハ姑ク置キ先ツ此分類ハ其
 編次ノ順序此憑據ヲ考窮スルニ最モ其便ヲ得
 タル者ト為シ次ヲ逐ヒ以テ上帝アルノ諸徴ヲ
 下ニ記載ス

第一節 道理上ノ憑據

道理上ノ憑據上帝アルヲ論スル方法ハ本ヨリ
 未ニ及ホスノ法ニシテ確乎不拔ノ者ト謂フ可
 シ蓋シ此憑據ヲ論スル各人ノ説同シカラスト

雖モ皆大同小異ニシテ其要領ト為ス所ニ至テ
 ハ敢テ差異アルニ非ス

古昔希臘ノ學士プラト氏ノ説ニ因ルニ總テ學

術知識ノ目的タル者ハ人ノ百事万物ヲ識認ス
 ルニ在テ其識認スル力ノ吾人ニ於ケル必ス一
 ノ心ニ在ラザルヲ得ス然レ凡人ノ心ハ唯其事
 物ノ識認スル力ノ我ニ在ルヲ悟ルニ過キスレ
 テ其力ヲ生スルヲ能ハサレハ此力ハ必ス上帝
 ノ心ヨリ出ルニ非サルヲ得ス又人ニ衆事ヲ辨
 別スルノ能力アル之ヲ辨理ノ心ト云ヒ人々皆

能ク事物ノ真偽善惡ヲ辨別スト雖此心ハ人
 ノ得テ存滅ス可キニ非ザレハ即チ亦上帝ノ心
 ヨリ發スルニ非ザルヲ得ス故ニ凡ソ人ノ事ヲ
 知リ物ヲ愛スル其畢竟ハ皆上帝アルニ因ル者
 ニシテ人ノ光明ヲ觀ル其光明ハ即チ上帝ノ造
 リタル所ニ出テ人ニ身體ノ具ハルハ即チ上帝
 ノ貌ニ象ル者ナリ此ニ由テ之ヲ言ヘハ上帝ハ
 萬物ノ本原諸般真實ノ基礎各種完全ノ模範ニ
 シテ宇宙間一物ノ上帝ニ出サルナケレハ上帝
 ノ存在スルハ即チ萬物ノ存在スル基礎ニシテ

若シ上帝ナキ時ハ一物ノ生スルナク一事ノ現
 スルナク真實知識正理公道一モアルヲ能ハサ
 ル可シ
 此說頗ル確論タルカ故ニ昔時ヨリ廣ク世ニ布
 キアンセルムアクイナス等ノ碩學輩專ラ此說
 ヲ唱ヘ近世又キドダリスボシエー子ロスマ
 レブランセ等ノ名儒皆此說ヲ主トセリ因テ此
 ニ其說ク所ノ大略ヲ掲クルニ凡ソ万国各地ニ
 於テ衆人ノ信從スル必須普通ノ真理ハ即チ永
 世不朽ノ真理ナルカ故ニ此真理ハ太古未々人

種ノ此世ニ生セサル時既ニ真理ニシテ縱令萬
 世ノ後此ノ世界ノ人種全ク滅盡スルニ至ルト
 雖氏亦猶依然トシテ真理タル可ク而シテ其真
 理ハ即チ永活不死ノ上帝ノ心中ニ在テ人ハ唯
 上帝ヨリ其辨理ノ心ヲ借受シ以テ其真理ヲ知
 ルニ過キスト

近歳又クウザン氏輩ノ主トシテ唱フル説ニ人
 ニ辨理ノ心アルハ原来其人ニ属スルニ非ス其
 心ハ即チ吾人ノ上帝ヨリ借受スル所ノ者タリ
 ト是レ亦プラト氏ノ論ニ因ル者ニシテ又デカ

ルテ、ライヴッツ、クラーク氏等ノ論スル所數説
 アリト雖モ少シク其途ヲ殊ニスルニ過スシテ
 歸スル所ハ皆同一ナリ

本心上ニテ上帝アルヲ知ルノ憑據○本心ナル
 者ハ人ニ直道ヲ知ラシムルヲ以テ之ヲ推理ノ
 能力ト為レ又人ニ常行ノ義務ヲ教ユルヲ以テ
 之ヲ施實ノ能力ト為ス蓋シ此二箇ノ能力ハ共
 ニ人ヲシテ上帝アルヲ知ラシムルノ憑據ナリ
 凡ソ人タル者ハ自カラ其心ニ曲直ノ理ヲ分別
 シテ直ナレハ之ヲ行ヒ曲ナレハ之ヲ制ス而メ

人又其意ヲ他人ノ行ヒニ留ムル時ハ亦能ク其
 曲直ヲ辨スルヲ全ク我レニ異ラサルヲ知ル夫
 レ人ノ能ク曲直ヲ辨スル此ノ如クナルハ即チ
 上帝ノ心ニ出ル所ニシテ苟モ上帝ナキ片ハ人
 心何ソ其曲直ヲ辨スルヲ得ンヤ
 又本心ハ獨リ曲直ヲ辨スルノ理ヲ明カニシ其
 能力ヲ顯ハスノミニ非ス又其曲直ヲ辨スル理
 ノ由来スル至貴無上ノ天律上帝ノ定ムニ因依
 レ以テ人ヲシテ自オカラ上帝アルヲ知ラシム故
 ニ教長ビトレル氏ノ言ニ本心若シ曲直善惡ヲ

分別スル時ハ推テ以テ自オカラ人ニ其行ノ至高
 至妙ナル天意ニ合フヲ思考セシメ我ニ義務ヲ
 教ヘ之ヲ行ハシムル者上帝ヲノ何者タルヲ知
 ラシムルヲ喻ヘハ我胸中ノ小審廳本心ニテ曲
 ルヲヨリ無上ノ大審廳ニ登ルカ如クナラシム
 ト又テル左リアン氏ノ言ニ人ノ本心ハ猶上帝
 ノ欽差使臣ノ如ク使臣アレハ必ス君長ナキ能
 ハス故ニ上帝ト本心トハ敢テ離ルヘカラサル
 者ナリト
 又カント氏ノ説ニ因ルニ人能ク其本心ニ勸善

ノ道ヲ辨スルハ即チ上帝アルニ出ツ故ニ人ヲ
シテ現世ニ於テハ善ヲ為ス者必スシモ幸福ヲ
享ル^ル能ハスト雖モ来世ニ於テハ必ス其報ア
ルヲ思考セシメ人ヲシテ自カラ過ラ悔ヒ善ニ
遷ルヲ知ラシムル是レ即チ上帝ノ力ニ因ル者
ナリト

第二節 天然上ノ憑據

天然上ニテ上帝アルヲ知ルノ方法ハ末ヨリ本
ニ及ホスノ法ニシテ之ヲ分チニトス即チ一ハ
宇宙萬物ノ動カラ以テ其憑據トシ一ハ上帝萬

物ヲ創造スル意思ヲ以テ其憑據トス
第一 萬物ノ動カラ以テ上帝アルヲ知ルノ憑
據

凡ソ今事物ノ新ニ生シ或ハ其模様ノ變易シ或
ハ全ク其滅盡スルヲ見ルニ敢テ之ヲ為ス者ナ
クシテ然ルニ非ス必ス其事ヲ為サシムル原由
アルヲ知ル然レモ其原由タル者ハ又其原由ナ
キヲ能ハスシテ一ノ原由ヨリ次ノ原由ニ及ボ
シ遷ニ溯テ止マサル時ハ終ニ其究極スル所ア
ラサルヨリ人心自カラ至極ノ原由即チ百般事

自然神論 卷一 一 一

物ノ元始アルヲ知ラサル能ハス而ノ其元始ハ
即チ上帝ニ非ラスレテ誰ソヤ
凡ソ天地間ニ現在スル諸件中ニ於テ或ハ動カ
アル者アリ或ハ動カナキ者アリ其動カナキ者
之ヲ物ト謂ヒ其動カアル者之ヲ心ト謂フ今夫
レ物ハ動行スルヲアリ或ハ動行セサルヲアリ
テ固ト一定ノ常分アルニ非スト雖モ其静息ヨ
リ変レテ動行ニ至リ又其動行ヨリ変レテ静息
ニ至ル者是レ其物ノ固有シタル力ニ非ス別ニ
其力ヲ有スル一箇ノ原由云心ヲアルニ因ル故ニ

生活物ノ如キハ自カラ動行スルノ力アルカ如
シト雖モ其動行ハ其物ト一箇ノ動カアル別物
云フトノ二者相待テ之ヲ為ス所ニ出テ敢テ其
物ノ獨リ為ス可キニ非サレハ物ノ一部ヨリ更
ニ他ノ一部ニ傳フル動行ノ外總テ物ノ動行ハ
夫ノ二者ノ相待テ為ス所ナリ此ニ由テ之ヲ考
フレハ物ヲ動行セシムルノ力アル者蓋シ心ニ
非スレテ何ソヤ而レテ其心タル者ハ顧ミルニ
原ト物ト別ニシテ物ヨリ生スルニ非レハ心ハ
即チ上帝ニ出テサルヲ能ハス然ラハ則チ動行

神論 卷一 一 一

自然神論 卷一 九 文部省

ハ心ニ因リ心ハ上帝ニ始マリ上帝ハ諸般動行ノ元始タルヲ分明ナリ

アラト氏ノ著ハンタルチミリス、デレジビニス等ノ諸書及ヒアリスートル氏ノ窮理學論中ニ

記スル所モ亦前ニ論スル所ト其說畧相同レ今

其大略ヲ擧クルニ凡ソ此世ニ存在スル者ハ獨

リ物ノミニ非ス又其物ヲシテ動行セシムル心

ナル者アリ而シテ其物ノ動行スルハ又其原

由ナキヲ能ハス即チ其原由ハ心ニ在テ心ノ本

原ハ即チ上帝ニ在リト故ニ古昔ノ窮理學家モ

心ハ原ト上帝ニ出テ其永遠無限ナルハ之ヲ信

セシト雖モ亦誤テ物ノ永遠無限ニシテ其元始

ナキヲ信セシニ因リ能ク心ノ物ヲ動行セシム

ルノミヲ知テ未タ其本原タル上帝始メテ空際

ヨリ此萬物ヲ創造セシヲ知ラサルナリ

第二 萬物創造ノ意思アル証ヲ以テ上帝アル

ヲ知ルノ憑據

上ニ説ク所ノ論理ニ因レハ凡ソ物ノ顯象ハ自

カラ發生スル者ニ非ス必ス其物ノ外別ニ一ノ

元始アル可ク而シテ其元始タル者ハ即チ確定ノ

自然神論 卷一 九 文部省

意思ヲ以テ宇宙間ノ衆事ヲ統馭レ無涯無疆ナル聰明ノ智心ヲ具ヘレ上帝タルヲ證明シ且此論理ヲ名ケテ元始ヲ以テスル論理ト云ヒ古昔高名ノ史家ゼノホン氏ノ主張セシ所及ヒ近世ステワート氏ノ唱フル所皆此ニ原ク者ナリ抑世上ノ萬物及ヒ靈心ノ元質ト其顯象トニ就キ考フル時ハ上帝之ヲ創造スルニ必ス其意思アルノ證瞭然明晰タル敢テ疑ヲ容ル可キニ非ス而シテ其證タル者ハ物ノ元質及ヒ顯象ト人心ノ元質及ヒ顯象トニ就キ以テ之ヲ見ル可キ

カ故ニ今此論理ヲ分チ二箇ト為レ一ハ人心ニ管スル證ヲ説キ一ハ物ニ管スル證ヲ論ス然レ氏人心ノ元質及ヒ顯象ニ管スルノ證ヲ以テ此天然上ノ憑據中ニ置キ以テ其名ヲ被ラシムルハ顧ミルニ其分類其當ヲ得ス因テ更ニ地ヲ易ヘ之ヲ説カント欲スレ氏又他ノ部中ニ於テ説ク可キニ非レハ今此ニ次ヲ追ヒ之ヲ論セントス

○第一 物ノ元質及ヒ顯象ヲ以テ上帝ノ意思アルヲ知ルノ証

今試ニ天地未タ分レズ混沌タル無形ノ際ヨリ
 人タル者此世ニ在テ宇宙ノ景状ヲ窺フタルト
 仮リニ想做ス時ハ當時萬物敢テ動行スルヲナ
 ク人唯其紊雜シテ一團ノ物塊タルヲ見ルカ故
 ニ唯其物アルヲ知ルニ過キスト雖モ一旦天地
 開闢シ其物塊分離シテ萬類互ニ動行ヲ始メ風
 ノ深潭ヲ吹クカ如キ潭水動テ浪瀾ヲ生シ人其
 頑冥ノ物塊此靈活ノ動機ヲ生スルヲ見ル時ハ
 必ス其元始アルヲ思ハサル可カラズ夫レ物ニ
 活動ノ機ナキ際ハ想ヲニ人其元始アルヲ悟ラ

スト雖モ苟モ物ニ動行ノ生スルニ至テハ即チ
 物ノ外別ニ其物ヲ生セシメタル元始アルヲ
 知ル可シ

又試ニ我輩天地ノ景状此整齊ノ際太虚ニ駕シ
 テ萬物ヲ眺觀スト仮リニ想做ス時ハ萬物互ニ
 章ヲ為シテ整列シ其動行一定ナルヲ望見ス可
 ク珠ニ天ハ無數ノ星辰互ニ光輝ヲ發シテ其壯
 麗ヲ極メ且夫ノ人智ヲ以テ窺測ス可カラサル
 日月星辰ノ空ニ懸テ旋回スル其妙舞靈動毫モ
 間斷障碍ナク以テ相調和整合スルヲ恰モ樂聲

土部

ノ相諧和レテ微妙ノ音ヲ發スルニ似タリ蓋シ
 想ヲニ上帝靈妙ノ耳ニハ其微妙ノ齊音ヲ聞ク
 可ク吾人ノ耳ニハ聞クヲ得可カラスト雖凡人
 ノ心中ニ於テ此端美齊嚴ナル天地ノ模様ヲ考
 フル時ハ豈之ヲ創造シタル聖明惠愛ノ上帝ナ
 シト謂フヲ得ニヤ

古昔希臘ノ名儒アリストートルノ書ニ是ニ齊
 シキ論理ヲ記シ且羅馬ノ碩學レセロモ亦此說
 ニ據テ法教ノ說ヲ講セシカ其言ニ余一度行星
 儀ヲ見ル時ハ忽チ其神妙ニシテ思議ス可カラ
 ラス

サルヲ悟ル況ヤ此身ヲ實際ニ置キ以テ日月星
 辰ノ運行整合スルヲ見ル時ハ豈ニ之ヲ創造セ
 シ上帝アルヲ悟ラサランヤト又シセロノ說ニ
 天空ニ異常ノ顯象彗星ノ如クアル時ハ人皆之ヲ
 畏懼スルノ念ヲ生ス是レ自カラ萬物ノ外別ニ
 之ヲ統馭スル靈妙ノ力アルヲ信スルノ徵據ナ
 リト因テ思フニ世人太古ヨリ天體日月星辰ヲ
 神トシ以テ之ヲ崇敬スルモ蓋シ其心亦上帝ア
 ルヲ解スルニ因ル所ニ出テ且人ノ占夢卜筮ヲ
 信スルカ如キモ亦其畢竟ハ無限無量ノ上帝空

際ニ在テ人ニ将来ノ事ヲ教示スルヲ知ルノ心
ヨリ謬信スルニ至リシ者ナリ
此ニ天空ノ論ハ姑ク置キ我地球上ニ就キ以テ
推論シテ夫ノ遠濶ナルヲ棄テ近接ノ事ニ注意
スル時ハ萬物ノ整齊安置スル實ニ偶然ニ出ル
ニ非ス必ス一定ノ意思ヲ以テ處置スル所ノ靈
妙ノ神力ニ因ルヲ更ニ明晰親切ニ了解シ得可
キナリ
凡ソ我地球ノ光景千般萬様其見ル所ヲ異ニス
ト雖モ其實ハ皆齊整ナラサル者ナク地上、空中、

水陸、山谷、原野、河川等相錯雜スルカ如シト雖モ
互ニ其章ヲ為レテ相齊列スル皆偶然無意ニ出
ル者ト為ス可カラズ必ス之ヲ創造セレ元始ア
ルヲ知ル可シ而シテ又唯我地上諸物ノ相齊列ス
ルニ端美絶妙ヲ極ムルノミニ非ス每地方ハ互
ニ其産物ヲ異ニシ每水陸ハ互ニ其生物ヲ異ニ
スルカ如キ皆各其適スル所ニ從ヒ殊ニ我地球
ノ太陽ヲ周廻スルヤ或ハ此面ヲシテ太陽ニ對
セシメ或ハ彼面ヲシテ其光線ヲ受ケシメ更其
温氣ヲ得テ以テ禽獸草木ヲ生長セシムルハ一

塊ノ大球頑然情ナク空中ヲ旋轉スルカ如キニ
 似ス恰モ慈母ノ其子ヲ愛育シテ其歡樂ヲ得セ
 シメ以テ保存生養スルカ如シ故ニ我輩地球ヲ
 以テ天體ノ一ト想做シ以テ其位置動行ニ著目
 スルモ又地上ノ萬物ヲ分析シ以テ其元素ノ互
 ニ相結合スル方法ノ無涯無數ナルニ注意スル
 モ又禽獸草木ノ其造設奇ヲ極メ妙ヲ盡スヲ考
 究スルモ各種ノ事物互ニ相合シ互ニ相助ケ以
 テ各其目的ヲ達セント欲スル者ノ如ク而シ其
 事物ハ固ト敢テ自カラ覺ヘ自カラ行フノ靈知

アルニ非サレハ豈亦其目的ヲ定メ其方便ヲ知
 ルノ理アラシヤ因テ思フニ其目的其方便ノ現
 然一定レテ常ニ整備セサルナキハ是レ即チ萬
 種ノ事物ヲ其源頭ニ在テ統御スル所ノ智力^{上帝}
 ヲ指シニ出テサルヲ得サル者ナリ
 ○第二 心ノ元質及ヒ顯象ヲ以テ上帝ノ意
 思アルヲ知ルノ証
 夫レ人ノ心ナル者ハ唯一物タルニ過キスト雖
 凡類ニ觸レ物ニ應シテ發起スル其能力ハ甚ク
 多クシテ各皆一ノ目的ヲ達スルノ方便ナリト

ス而ノ心ノ元質及ヒ顯象ニ就テ上帝ノ意思ヲ
ルヲ知ルノ証ハ左ニ記列スルカ如シ

(第二)人智ノ能力無涯ナル實ニ驚クニ堪エタル
事及ヒ其功用ノ盛大ナル事 凡ソ人タル者ハ
其智心能力ヲ啟發シ之ヲ研磨スルヲ得ルト雖
比新タニ其能力ヲ創造スルニ至テハ一モ之ヲ
為スヲ能ハス而ソ其能力ノ漸ヲ追ヒ磨練シテ
成熟ニ至ルヲ得ルハ即チ上帝ノ人ヲシテ其能
力ヲ完成セシムルヲ欲シ以テ賦與シタルノ証
ナリ諺ニ曰ク耳ヲ造リタル者上帝ヲ指ハ自カ
シ上帝ヲ指ハ自カ

聞カサルノ理ナク目ヲ造リタル者同ハ自カラ
視サルノ理ナク人ニ智識ノ心ヲ賦與セシ者同
ハ自カラ物ヲ識別セサルノ理ナシト是ニ由テ
之ヲ考フレハ苟モ人ニ智心アルハ即チ上帝自
カラ人智ヲシテ進歩セシメント欲スル意思ア
ルノ証ナリ又人ノ情欲、志念、感覺等其中ニ動テ
外ニ發スル千種萬端ニシテ驚ク可キモ亦猶智
心ノ能力ニ等シク敢テ偶然目的ナク備ハリタ
ル者ニ非ス必ス無涯ノ靈智アル上帝人心ノ善
ニ遷ルヲ旨趣ト為シ以テ賦與セシ所ニシテ且

其五ニ動キ互ニ發スルハ之ヲシテ其平均ヲ得セシムルカ為メナル可シ

(第二)人心ノ元質ト萬物ノ造方ト互ニ相適合スル事 人ニ五官アレハ亦其五官ヲ悦ハシムルニ適シタル物躰アリ故ニ人其五官ヲ用フル時ハ亦必ス歡娛ヲ得是ヲ以テ人ハ自カラ屢其五官ヲ用ヒ次第ニ天地萬物ノ理ヲ悟ルニ至ル蓋シ人未タ嘗テ聽知セサル新奇ノ現象ヲ見聞スル時ハ意中自カラ其新奇ノ事ヲ探知スルノ念ヲ生シ勉メテ其道理緣由ヲ考究セント欲スル

ニ至ル故ニ人心ノ能力天地間ノ萬物ト日ニ相接シ月ニ相關シ以テ其智心ヲ次第ニ進歩セシムル者ナリ又人ハ情欲感動アルニ因リ之ニ應スル顯象物躰アリテ自カラ其感情ヲ發起セシメ以テ終ニハ人ノ為メ大益ヲ生セシムルニ至ル

(第三)心ノ力ト躰ノ力ト互ニ相適合スル事及ヒ躰ノ力心ノ力ニ聽順スル事 凡ソ人心ノ欲スル所體中ノ筋節ヲ指揮スルハ敢テ論ヲ待タサル所ニシテ心ハ主ナリ體ハ從ナリ故ニ心ノ令

スル所ハ躰忽チ之ニ應シ每事其命ヲ奉セサル
 ナキ是レ偶然旨趣ナクシテ然ルニ非サルヲ明
 カナリ
 人ハ其初ノ先ツ性情及ヒ智心ノ能力アリ又其
 性情ヲ發セント欲シ其能力ヲ行ハント欲スル
 ノ意アリ而ノ後ニ其身躰之ニ應ス可キ機關ヲ
 生ヤシト為スノ説ヲ唱フル者アレハ是レ全ク
 虚誕ニ属スル者ニシテ佛國高名ノ博物學家キ
 ビエリ氏ノ説ニ凡ソ天地間ニ在ル有機躰ハ其
 初メ各完全ヤシ者ニシテ其部分互ニ相應セサ

ルナク相合シテ以テ一ノ目的ヲ達セントスル
 ニ在リト此説真ニ理アリト謂フ可シ
 又昔時リクレヒス氏及ヒ其他ノ學士輩ハ皆
 體ニ機關アリ而メ後ニ之ヲ用ヒント欲スルノ
 心アリト言ヒ相與ニ其説ヲ主張スルニ因リ試
 ニ之ヲ想フニ喻ヘハ手ノ如キ人先ツ之ヲ用ヒ
 漸ニ經驗ノ後以テ其心ノ思欲スル所ヲ行フニ
 全ク適宜ナルヲ覺ヘ終ニ手ヲ以テ精巧微細ノ
 品物ヲ製シ或ハ絶妙甚奇ノ技藝ヲ奏スルニ至
 ル皆人ノ親ク知ル所ニシテ敢テ疑ヒヲ容ル可

キニ非レハリユクレヒトス氏等ノ説ク所全ク無
 據ト為ス可キニ非サレモ顧ミルニ其畢竟ハ唯
 躰ノ機関ト心ノ能力ト相適合スルヲ證スルニ
 過キスシテ蓋シ人ハ先ツ心ノ能力アリテ然ル
 後ニ躰ノ機関ヲ生シタルノ理ナク又機関先ツ
 具ハリテ然ル後ニ心ノ能力ヲ生シタルノ理ナ
 ク此ニ物ノ互ニ相適合シ以テ其用ヲ為スハ即
 チ皆上帝ノ意思ニ出ツルノ證ナリ
 茲ニ又人ノ心ハ特ニ一箇ノ者タルニ非ス惟躰
 ノ造方ニ因リ以テ生スル者タルノ説アリ然レ

凡人ハ固ト心ナキヲ能ハサレハ縱令其心タル
 者躰ノ造方ニ因リ以テ生スルモ又別ニ一箇ノ
 者タルモ之ヲ造ルノ奇巧靈妙ナルニ於テハ毫
 モ差異アルニ非ス故ニ其説ク所互ニ相異ナル
 モ共ニ其心ヲ造リ心ヲ賦與セシ上帝アルハ以
 テ之ヲ證スルニ足リ殊ニ躰ノ性質ト心ノ能力
 トハ固ト全ク相異ナルカ故ニ其心ノ躰ニ因テ
 生スルト為スノ説ハ特ニ道理ト相戾リ躰ト心
 トハ判然別物ト為ス者之ヲ確的ノ論ト謂フ可
 ク而ノ且人ノ心ノ躰ニ非サルヲ知ル時ハ其原

タル上帝モ亦躰ニ非サルヲ知ルニ足ル可シ故
ニ能ク人ノ心ノ何者タルヲ思考スル時ハ獨リ
自カラ上帝在ルヲ知ルノミニ非ス又其上帝ハ
無躰無形ノ神靈タル證ヲ得ルニ至ル可シ

第三節 人心上ノ憑據

人心上ノ憑據ハ必スシモ明理學ノ道ニ合ヒ一
言ノ能ク斷定ス可キト謂フニ非サレ凡固ト是
レ世上衆人普通ノ性情感覺ニ原ク所ナルカ故
ニ其憑據タルカヲ具ヘ之ヲ確的ト為ス可キト
猶明理學ノ道ニ適ヒシ憑據ト相異ナルトナシ

第一 世人一般ノ許認ニ因リ上帝アルヲ知ル
ノ憑據

凡ソ世界萬國何レノ地ニ於テモ上帝アルヲ信
セサルナク而ソ古昔ヨリ今時ニ至ル迄其信據
依然トシテ變易消滅スルトナシ故ニ何レノ世
何レノ國ニ於テモ苟モ上帝アルヲ知リ上帝ア
ルヲ信セサル者未タ曾テ之アラスト謂フモ亦
敢テ其實ヲ謬ル者トセス
風俗殊異ノ外邦ニ初メテ赴キシ輩ハ未タ其國
ノ事情ヲ詳知セサルカ故ニ本國ニ皈來スレハ

則チ曰ク彼國ノ人民ハ未ダ全ク上帝アルヲ知
 ラス且上帝ナル辞ハ何ノ義ナルヲ知ラスト相
 唱フル者間アラサルニ非サレモ若シ此輩復々
 其國ニ到リ深ク其人民ト交ヲ通シ以テ其情實
 ヲ詳ニスル時ハ嘗テ其唱エシ言ノ謬ナルヲ覺
 ヘ其國人等實ハ皆上帝アルヲ知ルノ情ヲ曉知
 スルニ至ル
 抑上帝アルノ憑據ハ明瞭ニシテ且ツ無數ナル
 カ故ニ如何ナル人ト雖モ通常ハ皆其智心ノ能
 カノ發動ニ因リ以テ其憑據ノ確然タルヲ知認

シ得可ク而シテ又凡ソ道理ヲ辨別スルノ心ア
 ル者ハ必ス天然ノ物ニ觸レ天然ノ事ニ接シ不
 知不知亦自カラ上帝アルヲ信セサルヲ得サレ
 ハ人ノ智心ト人ノ現時ノ景況トニ因リ世上ノ
 人類舉テ自カラ上帝アルヲ信スルニ至レリ嗚
 呼世上人類ノ舉テ相信スル者其理豈ニ之ヲ幻
 想ニ出テ萬民盡ク虚謬ヲ信スルト謂フヲ得ン
 ヤ
 第二 人ノ天性ニ於テ上帝アルヲ知ルノ憑據
 上ニ掲クル所ハ人ノ智心或ハ道心ニ因テ上帝

アルヲ知ルノ証ヲ説キ又下ニ舉クル所ハ人ノ
智心ニ因ラス唯人ノ天性ニ因テ自^オカラ上帝ア
ルヲ覺ユルノ証ナリ
レセロ及ヒテガルテ西碩儒ノ言ニ曰ク人ノ上
帝アルヲ覺ユルハ其本性ニ原ク所ナリト又ブ
ロヂー氏ノ曰ク人ハ其智心未タ啟ケサル時ト
雖モ人カノ及ハサル一箇ノガアルヲ覺エサル
者ナシ故ニ人ノ上帝アルヲ信スルハ即チ其固
有スル所ニシテ人ノ本性ニ出ル者ト謂フ可レ
ト

人ノ天性ニ於テ上帝アルヲ知ルヲ憑據ハ其本
義ヲ辨明スルニ大略次ノ如シ
人ハ必ス上帝アルヲ識認シ且之ヲ尊敬スルノ
能力アリ而シテ苟モ人ニ此能力アルハ即チ亦其
目的ニ上帝ヲ指タル者アルノ證ニシテ吾人ノ其
能力及ヒ感覺ハ固ト取テ的見ナキノ力又ハ矇
昧昏瞑ナル情欲タルニ非サルナリ然ルニ今若
シ上帝ヲ以テ有ルヲ無シトスル時ハ何ヲ以テ
カ人皆必ス上帝アルヲ識認シ且之ヲ尊敬スル
ノ能力アルヲ得ンヤ故ニ果シテ上帝ナシトス

ル時ハ我敬神ノ感覺泛然全ク其目的ノ所在ヲ
 知ラスシテ啻ニ我本性タル感覺ヲ用フ可キノ
 道ヲ辨セサルノミナラス其感覺モ亦全ク無用
 ノ者タルニ過キサル可シ此ニ由テ之ヲ考フレ
 ハ此等ノ事ハ固ト道理上ニ之レアル可キニ非
 スレテ苟モ人々敬神ノ感覺アルハ即チ上帝ア
 ルニ出ル所ナリ
 人ノ性トシテ上帝アルヲ覺ヘサルナキハ古今
 何レノ國ニ於テモ必ス法教ヲ奉セサル者ナキ
 ヲ以テ之ヲ見ル可ク而ノ其法教ヲ奉セサルナ

キハ是レ實ニ人ト獸類トノ大別ニシテ蛮夷ノ
 如キハ間法教ヲ奉セス全ク上帝アルヲ知ラサ
 ル者アリト雖モ其畢竟ヲ考フル時ハ亦其本性
 ニ敬神ノ念アラサルニ非ス唯其念ノ効力隠レ
 テ外ニ發セサルノミアイザク、テイロル氏ノ語
 ニ凡ソ人ノ本性中此人彼人ノ別ナク世界ノ人
 種ニ其効力全ク潛匿シテ發セサル者ナキニ非
 スト蓋シ敬神ノ念モ顧ミルニ亦或ハ潛匿シテ
 外ニ發動セサル者アリト雖モ人ノ天性タルヤ
 依然トシテ其念ヲ失ハサルナリ

亞非利加ノ南方ニ住ムカフル人種中ノ一族タルベキアナスハ往時上帝ヲ指シメリモト稱セリ然ルニ近歲教師モツゾ一氏其國ニ至リシニ土人メリモナル語ノ義意ヲ變シ巫婆ノ鬼魅ヲ指ス辞ト為セリト嗚呼彼土人等誤テ上帝ヲ指シ虚誕ノ鬼魅ト為スニ至リシハ慨歎ニ堪ユスト雖モ畢竟其鬼魅ヲ畏敬スルノ念アルハ即チ自カラ萬物ヲ統制スル上帝アルヲ覺ユルノ念ニ原ク所ナリ又野蕃夷狄ノ人種中ニ於テハ全ク敬神ノ念ナキ者或ハ亦其無キヲ必ス可キニ

非スト雖モ顧ミルニ此等ノ野蕃ヲ以テ敢テ人ニ敬神ノ念ナギノ証トス可キニ非サルナリ蓋シ野蕃夷狄ノ人種ノ如キハ要スルニ敬神ノ念其萌芽ヲ發セントスルノ際或ハ頓ニ障礙ニ逢ヒ矮縮シテ成長スル能ハス或ハ一端其念ヲ發スルノ後縱放慘虐ノ惡習ノ為ノ妨害セラレテ痿靡セシノ証トス可シ凡ソ艸木鳥獸ノ類其自然生長スルニ相適セサル景況中ニ在ル時ハ其質必ス卑惡ニ至ル可ク而ソ人モ亦之ニ異ナラスレテ其身賡智力及ヒ

其脩身敬神ノ念或ハ亦衰敗スルノ患ナキヲ能
 ハスドローウ氏ノ論ニ曰ク凡ソ艸木ノ本質ヲ窮
 メ鳥獸ノ真性ヲ知ラント欲セハ其卑惡ノ種類
 ニ就キ以テ之ヲ見ル可カラス故ニ人モ其本性
 ノ何物タルヲ考窮シ且其善美ナル性質ヲ知ラ
 ント欲セハ亦夫ノ鄙陋蠢愚ノ夷狄ニ就キ以テ
 之ヲ見ル可カラス是レ其蠢愚ノ夷狄ニ於テハ
 人ノ善美ナル性質固ト缺滅シテ全ク存セサル
 ニ非スト雖モ顧ミルニ其開發ノ機特ニ微ニシ
 テ知ルヘカラサレハ人ノ性質其如何ナルヲ考

窮スルヲ能ハサルニ因ル故ニ夫ノ草木ノ類ノ
 如キモ亦之ヲ其生長スルニ極メテ相適セサル
 景況ノ中ニ置ケハ種子ヲ生スルヲ能ハサル者
 アリト雖モ豈ニ是ヲ以テ其種子ヲ生セサルヲ
 艸木ノ本性ナリト謂フヲ得ンヤ故ニ人モ縱令
 敬神ノ念ヲ生セサル蠢愚ノ野蕃アリト雖モ亦
 是ヲ以テ其敬神ノ念ナキヲ人ノ本性ナリト謂
 フ可カラス

第三 歴史上ノ憑據

凡ソ世界各國ノ口碑及ヒ史乘ニ萬物初メテ此

世ニ創造シタルノ期若クハ萬物皆方今ノ形狀ヲ得タルノ期ヲ傳ヘサル者ナク而ノ又其期ハ今ヲ去ル永遠無限ノ古ニ在ラスレテ推算スキノ數中ニ在リ因テ思フニ若シ永遠無限ノ古ヨリ萬物皆方今ノ形狀ヲ得テ存在シタル者トセハ其史乘モ亦隨テ永遠無限ノ古ニ及ヒシ者タル可ク而ノ人モ亦永遠無限ノ古ヨリ此世ニ存在セサル可カラス若シ人ヲ永遠無限ノ古ヨリ此世ニ存在セシ者トセハ必ス其無限ノ古ヨリ智識ヲ具ヘ凡百ノ經理ヲ為ス可キカ故ニ必

ス其蹟ヲ後世ニ傳ヘ以テ今ニ遺ス可キノ理ナリ然ルニ方今世上ニ於テ人ノ了知スル百般ノ學術工技一モ其起生ノ期ヲ知ルヲ能ハサル者ナキハ是レ即チ萬物皆方今ノ形狀ヲ得タルハ永遠無限ノ舊ニ在ラスレテ人モ亦永遠無限ノ舊ヨリ此世ニ在リシ者タルニ非サルノ明証ナリ或人ノ說ニ人ハ無限ノ古ヨリ此世ニ在テ有益ノ學藝ヲ知ルト雖モ數千万年ノ久キヲ歷テ或ハ自カラ之ヲ遺失シ或ハ此世ノ大激動ニ逢ヒ

以テ其傳ヲ失ヒシ者タル可シト此說較理アル
 = 似テ此世ノ史乘既ニ詳明ナルニ至ルノ後モ
 其學術工技互ニ盛衰アリテ物ノ消長ハ固ト論
 ヲ待スト雖モ願ミルニ物ノ此地ニ衰フレハ必
 ス彼此ニ盛ナル是レ其常ナルカ故ニ苟モ一旦
 學藝ヲ發明スル時ハ縱令此國ニ在テ湮滅シ其
 傳ヲ失フト雖モ豈彼國ニ於テ同種ノ學藝復々
 隆盛ナラサルノ理アラシヤ因テ思フニ世ニ此
 世界ヲ以テ永遠無限ノ古ヨリ今ニ存在シタル
 ノ論ヲ主張シ其大激動ニ逢フノ際世上ノ人種

悉ク滅盡シ諸般ノ學藝モ亦相與ニ消滅シテ終
 = 全ク其跡ヲ失フニ至ルト為ス者アリト雖モ
 若シ此論ヲ以テ確實トスルカ如キハ既ニ大激
 動ニ逢フノ後何ヲ以テカ百物再ヒ此世ニ生シ
 人種再ヒ此世ニ生スルヲ得タルヤ其理殊ニ解
 ス可カラサレハ此言固ヨリ確論トス可キニ非
 ス而シ又此世界ノ大激動ニ逢フノ際若シ其人
 種ノ中幸ニ後ニ存スルヲ得タル者アリトセハ
 意フニ其學藝ノ如キモ亦與ニ後ニ存シテ今ニ
 傳ハラサル可カラス故ニ人ノ此世ニ生セシ其

初メハ蓋シ方今史乘ニ就キ知ルヲ得可キノ期
ニ在テ其更ニ無限ノ古ニ生シ夫ノ大激動ニ逢
フテ此世界ノ人種學藝屢滅盡ニ屢新造シタル
ト為スハ實ニ無根ノ浮説ニ属シ畢竟人種ハ艸
木鳥獸ニ後レ以テ此世ニ生セシ者タル可シ殊
ニニウトン氏ノ説ク所ニ據ルモ亦此人種ノ初
メテ此世ニ生セシハ敢テ無限ノ古ニ非スシテ
且文字、船舶、印刷、縫針等諸般ノ學術技藝ニ属ス
ル物ニ於テモ其發明ハ皆方今所在ノ史乘ニ就
キ以テ之ヲ知り得可ク而シ夫ノ地球上顛覆類

壞ノ如キモ亦其徵ニ就キ之ヲ考フレハ我此世
界ノ激動ハ僅カニ唯一回ノ大洪水ノミニ非サ
ルヲ實ニ其證アル者トス因テ此事ニ就キ自カ
ラ亦次ノ憑據ニ説キ及ホサ、ルヲ得ス

第四 地成ノ理上ノ憑據

佛國著名ノ學士ラブレリス氏地球ノ形貌ヲ考
究スル為メ多年心カヲ勞シテ之ヲ測量セシカ
終ニ地球ハ元ト流動物タリシヲ決定シ且同國
人ギビエー氏ノ説ニモ亦此地球ノ骨骸トモ称
ス可キ原石ノ類ハ其結晶シ或ハ層ヲ為スニ因

リ之ヲ考フルニ元ト其流動物タリシヲ知ルニ
 足ルト而シテ今地球ノ流動物タリシ時ヲ想フニ
 必ス其熱氣劇烈ナル可ク故ニ凡ソ艸木鳥獸ノ
 類一モ地上ニ在ルヲ得サル可シ然ラハ則チ生
 カト有機躰トハ顧ミルニ何ヲ以テカ初メテ此
 世ニ生スルヲ得タルヤドクトル、バクランドノ
 語ヲ借り之ニ答テ曰ハン蓋シ地球ハ其初メ一
 ノ有機躰ノ其間ニアラサルノ時アリシト既ニ
 分明ナレハ有機躰ハ必ス其後ニ至リ生セシ所
 ノ者ニシテ之ヲ生セシメタル其初メハ全智ア

ル上帝即チ造物主ノ意ト命トニ出ルノ外他ナレ
 凡ソ百般ノ有機躰中ニ在テ人ハ最後ニ生セシ
 者タル可ク故ニ地ノ内層ニ於テ有機物ノ遺跡
 ハ充滿スト雖モ人ノ骨骸ハ其跡ヲ視ルトナレ
 此ニ由テ之ヲ考フレハ人種ノ初メテ地上ニ生
 セシハ地球變革ノ史中其最新ノ事タル敢テ疑
 ヲ容ル可キニ非ス既ニセヂヤソク氏ノ語ニ於
 テモ地成ノ理ニ就キ以テ推考スル時ハ人ノ骨
 骸ト人ノ造作セシ物躰トハ其遺跡唯僅カニ最
 新ノ地層ノニニ限ルカ故ニ人ノ此世ニ生セシ

ハ想フニ其歳ヲ歴ル^ト永遠ナリトス可カラス
 ト又ロイド、ブロウガム氏ノ語ニ人ノ地上ニ生
 セシハ今ヲ去ル永遠ノ古ニアラサル^ト明カナ
 リ故ニ彼^トアテイスト^ト上帝ナシトノ説
 カ如ク方今地球ノ形状ヲ無限ノ昔ヨリ存續シ
 タルト為ス者ハ實ニ無根ノ謬説ト謂フ可シト
 第五 星學上ノ憑據

今ヲ去ル二百年前英國ノ星學家ハルレイ氏ノ
 説ニ行星ノ動行ニエートル^ト天^ト空^トノ^ト抵^トスル^ト力
 ハ久シカラスシテ必ス大ニ行星ノ動行ヲ遲カ

ラシムルニ至ル可シト而ノ此語ノ確的ナル^ト
 エンケノ彗星ノ旋轉ヲ以テ之ヲ證スル^ト得^トタ
 リ又ドクトル、フ、^ト氏ノ語ニ千七百八十六
 年初メテ此彗星ヲ發見セシヨリ千八百三十四
 年ニ至ル迄エートルノ抵抗力ニ因リ此彗星旋
 轉ノ期日既ニ二日許ノ差異ヲ生シタリト蓋シ
 エートルノ抵抗力ハ獨リ此彗星ノ動行ノミ^ト
 妨ルニ非スレテ凡ソ諸様ノ行星皆之カ為メ其
 動行ノ妨ヲ受ク可キ^ト敢テ言ヲ待タサレハ我
 地球ノ如キモ亦必ス同一ノ妨ケヲ受ケサル可

カラス故ニ若シ我地球ヲ首メトシ諸様ノ行星
永遠無限ノ古ヨリ天空ニ懸テ動行旋轉セシ者
トセハ想フニ必スエリートルノ抵抗力ニ因リ次
第ニ其動力ヲ失フテ太陽ノ引力ニ制壓セラレ
諸様ノ行星皆既ニ太陽ノ面ニ附着セサルヲ得
ス此ニ由テ之ヲ言ハハエリートルノ抵抗力既ニ
此確証アルカ故ニ此世界ヲ以テ永遠無限ノ古
ヨリ存在セシト為スノ説ハ其理ナキヲ特ニ明
カニシテ獨リ我地球ノニ非ス日月星辰ハ起
源モ亦心ニ想像スルヲ得可ク而メ其起源ノ何

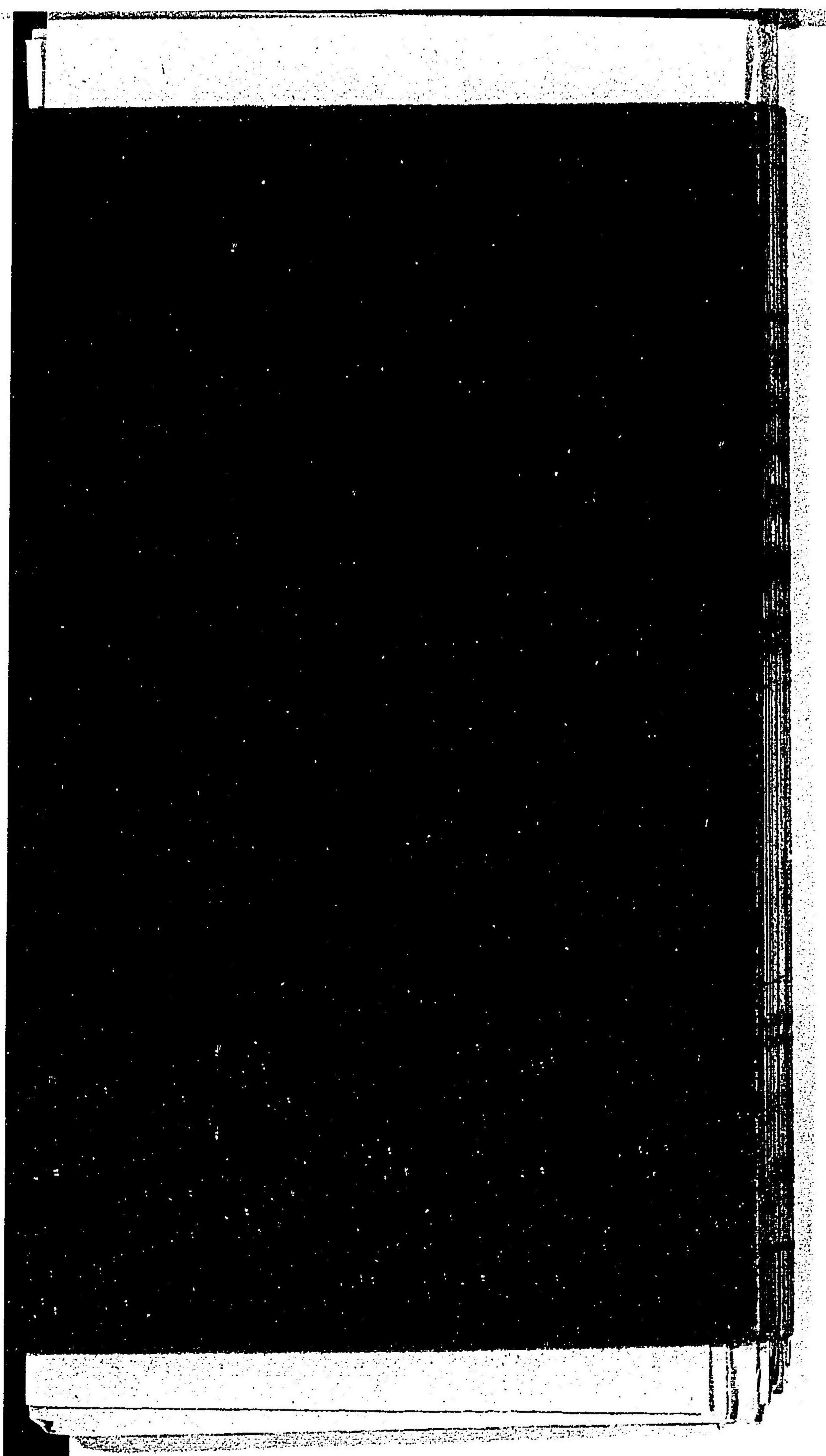
者タルヲ考フル時ハ全智全能ノ上帝ヲ除クノ
外豈ニ別ニ物ノ能ク其真ノ起源ト為ス可キ者
アラシヤ

結言

前ニ記列セシ數箇ノ憑據ヲ以テ確然上帝アル
ノ微證ト為ス可キヤ否之ヲ了知セント欲スル
ニハ獨リ各箇ノ憑據中其一箇ノ効力ニ就キ以
テ之ヲ視ル可カラス其數箇ノ憑據ヲ合シ以テ
之ヲ視ル可キヲ譬ハハ茲ニ一箇ノ竿アリ而ノ

之ヲ撓メ之ヲ折ル敢テ難キニ非スト雖モ若シ
數箇ノ竿ヲ合シ之ヲ把束スル時ハ容易ニ之ヲ
撓折ス可カラサルカ如ク前ニ記スル憑據中其
一箇ノミヲ取り之ヲ論スル時ハ未タ其確乎々
ル徵証ト為ス可キニ非サレ氏若シ其數箇ノ憑
據ヲ合シ以テ考窮スル時ハ自然ノ靈光ニ因リ
以テ上帝アルヲ知ルノ徵證實ニ確然動カス可
カラサル者ト謂フ可シ

自然神教卷一終



7

24

東 京 圖 書 館				
西	三	一	七	
冊	四	架	函	類

甲
三
共
四
本

013710-001-2

7-24

泰西自然神教

箕作 麟祥 / 訳

1 冊

M7-9

ABA-0182

